

課題名：日米医学協力計画を基軸としたアジア地域にまん延している急性呼吸器感染症に関する研究

公表年月日：令和元年5月25日

公表の方法：日本マイコプラズマ学会 第46回 学術集会 シンポジウム

公表の題名：ニューキノロン耐性肺炎マイコプラズマ—実験由来株について—

公表内容の概要（400字以内）：2000年以降、マイコプラズマ肺炎の第一選択薬剤であるマクロライド系薬剤（MLs）に耐性を示す肺炎マイコプラズマの増加が問題となっており、このため、成人領域では、ニューキノロン系薬剤（FQs）の使用が増加した。現在のところ、FQs 耐性肺炎マイコプラズマ（FQMP）の臨床分離株は確認されておらず、実験由来株はフランスの Gruson らの報告があるものの国内では報告がない。そこで、最近の臨床分離株における FQs に対する薬剤感受性試験を実施し、FQMP の出現状況を調べるとともに、日本の臨床分離株を用いた FQMP のセレクション実験にて出現の可能性を調べたので報告する。